

大平地域包括支援センター 担当

日 時： 令和8年1月21日（水）午後2時00分～2時20分

会 場： 栃木市役所大平総合支所 第3会議室

事例数： 1 ケース（R7年7月16日検討した事例の振り返り）

参加者数： 10名

事例提供者 1 名、助言者6名、包括職員 2 名、傍聴者 1 名

転倒や腸閉塞の再発に不安を感じている 82 歳女性

〈目標〉1日：転倒に注意して階段の昇り降り動作を行う。

1年：腸閉塞が再発しない様に、健康管理や食事管理をきちんと行う。

利用サービス：介護予防通所リハビリテーション・介護予防福祉用具貸与

《前回会議での支援策》

支援方針：少しの変化も見逃さず、早期発見・早期治療を心掛け、本人のやりたいことを安全にできるよう支援する。

- ① 通所サービスや関係者で排便や ADL の状況、体調の変化を見逃さず、早期発見・早期治療を心掛ける。
- ② シェーグレン症候群による唾液減少で飲み込みづらくなり、口内炎ができやすく、カンジタ菌が増えやすいので注意する。
- ③ 唾液減少の対策として、人工唾液の使用や口の中の刺激、唾液腺のマッサージを行う。
- ④ 複数の薬局の利用や薬の種類が多いため、自己管理が難しくなってきたら、自宅近くの薬局へ相談する。
- ⑤ 塩化ナトリウム摂取や下剤の服用の際には、水分を多めに摂る。
- ⑥ 階段昇降の多い自宅での生活を継続していくために、リハビリを通じて今後予測されるリスクを評価し、対策を検討していく。
- ⑦ 本人がやりたいと希望する外出や映画、お茶会等を実現するためのトレーニングを行う。
- ⑧ BMI17.1 であるが、無理に体重を増やそうとせずに、今の生活を継続していく。
- ⑨ 喉の渇きはシェーグレン症候群からの可能性もあるため、みそ汁を毎食から夜のみ麦茶に変えると良い。
- ⑩ イレウス対策として、水分は十分摂取し、利尿作用の強いお茶やコーヒーではなく、白湯や麦茶を時間で飲むように心掛ける。
- ⑪ よく噛んで食べるようにして、一日10品目チェック表を活用し、食べている物を確認する。
- ⑫ あったかとちぎ体操やはつらつセンター事業について、居住地別に会場が異なるため、社協から実施場所等の情報提供ができる。

《支援結果・状況》

①～⑫達成：ADLの低下もない。早めに医師へ相談している。DCで教わった運動を自宅で行っている。利尿作用が強いお茶ではなく麦茶などに変えた。バランスの良い食事をよく噛んで食べている。意識的に唾液腺マッサージを行っている。薬の飲み忘れもない。